慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「盛り場」に関する若干考察（都市に於ける中心地域の構成）
Sub Title	
Author	奥井, 復太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1935
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.29, No.3 (1935. 3) ,p.319(1)- 351(33)
JaLC DOI	10.14991/001.19350301-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19350301-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

京都帝國大學法學會

法學論叢

昭和十年三月　第三十二卷第三號　三月號

類型について……宮本英脩
國務大臣の輔弼と內閣……朧谷峻嶺
動產執行に於ける執行行爲の瑕疵……中田淳一
波蘭の新統一和議法……齋藤常三郎
警察緊急狀態……須貝脩一
英法に於ける雇傭契約と營業制限の法理……清水金三郎
——批評と紹介——
ペルシャ新株式法……松波淕三郎
プロパガンダと國際責任……立川文彥
——民事判例研究——
預金受入の假裝と拂戻義務・暴利行爲と民法第九十條……石田文次郎
裁判上の相殺・取得時效と前主の占有……田島順
雜報　研究會記事

壹冊金五拾錢郵稅壹錢
一年分郵稅共金參圓
半年分郵稅共金六圓

發行所　東京　有斐閣
發賣所　京都帝國大學法學會

三田學會雜誌　第二十九卷　第三號

「盛り場」に關する若干考察

（都市に於ける中心地域の構成）

奧井復太郎

一

余程以前に都市は社會生活の機能的中心地であると書いた事がある。即ち社會生活には如何なる時代にも如何なる場所に於いても何等かの形式で中心地又は中心點が形成されるものである。之れが經濟生活の現段階に於いて國民經濟・世界經濟的に表現されて、現在の大都市となつたのであると述べた事があつた。故に一軒の家にも臺所とか玄關とか云ふ所に比べて居間茶の間又は食堂の如きは家庭生活のより中心的な場所であり、未開人の部落に於いても、又現在の山間邊陬の寒村にも、其處に營まれる生活の日常的乃至は季節的の中心地又は中心點が存在する。

人口數千乃至は數萬の村や町や小都會なぞには、それ〴〵の地域的に社會的生活の中心點を持つてゐる事は敢て論ずる迄も無い事である。要するに人間の社會生活には、其の生活が「最も社會的なる」即ち社會的對人的接觸の最も頻繁にして且つ複雜なる、場所と場合が存在してゐる。最も好個の例證としては現代の大都市に於けるビジネス・センタア及び其の附屬地が擧げられる。此の地域に於ける特徴を證明するものとして、此の地點を目指して集中する交通系統と其の負擔する交通量とがある。現在の大都市の地域的研究は、此の地域に存在する要素の一つに必ず交通機關の殊に旅客交通機關の終點を擧げてゐる（カアペンタア著「都會生活の社會學」八六頁以下參照）。

然らば、ビジネス・センタアは單なるビジネス丈けのセンタアであるか。昭和二年に發行された「時事新報經濟部」編の「ビジネス・センター」と云ふ本がある。之れによると「我國證券取引のセンター」である兜町、「期米の蠣殼町」「神田川及深川の正米市場」「消費經濟のセンターをなす銀座街」「現代日本財界の心臟部をなすと云はれる丸の内街を日本のビジネス・センター・オブ・センタース」として紹介してゐる。同書にはこの外に傳統的中心街としての「日本橋界隈」更に「生糸集散の國際マーケット横濱」「灘の生一本、我國米市場の元祖堂島、東京の兜町と對立する北濱市場」等が日本代表的中心市場として解剖敍述されてゐる。（同書序參照）

成程ビジネス・センタアは狹義の字義から云へば上述の如き性質のものである。しかし、都市社會學的な觀察は、丸の内に會社總數がいくつ、其の資本金がいくらと云ふ事を考察した丈けでは滿足しない。兜町に取引せらるゝ我國證券の取引額がいくらに達したかと云ふ事も一つの課題である。しかし、我々の立場からは、更に之れに附隨する色々な現象を觀察しようとする。さうすると以上のビジネス以外の特長が歴然と現はれて來る。

前記のカアペンタアの著によれば都會内地區別の中心地は「中央商業地域」とせられ此の中心地域の特色は第一に、小賣商業、之れも大衆的商品とは反對に高級的商品、即ち寶石、繪畫、流行衣裳等の販賣店舗、並びに百貨店に表現された特殊の販賣形式による小賣商が主となる。第二に飲食店　第三に都市行政府及び文化的中心を含むとせられてゐる。更に此の中央商業地域附屬のものとなつて第四に卸商業、第五　特殊的な工業――例へば新聞、印刷、流行衣裳等に關する――第六　高級ホテル及び高級のアパートメント、第七　旅客交通の終點、第八　娯樂機關　第九　金融及經營主腦部等である。

之れによつて見ると前記の如き狹義のビジネス・センタアは、第九に相當するものに過ぎないが、假りに之れを狹義に解してもビジネス・センタアはビジネス丈けに游離せしめて來る事が出來ない、外に多くの關係を不可分に含んでゐる。かく含まれたものはビジネスが派生せしめたものであるか否やに就いての考察は別の機會に讓る。たゞ一つの提言として、中心地又は盛り場を生み出す力は、大部分自然發生的なもので、從つて同じ力がビジネスを其處に集中せしめてゐるものだと考へ得られる。例へば古くから交通の要所となつた地點の如きは、或ひは新開地に於ける同樣な地點は、社會生活上の接觸からビジネスと共に上に掲げた樣な他の色々な存在物をも發生せしめてゐる。勿論、銀座の發展が丸の内の發展に負ふ事も多いが、丸の内自體も、東京の發展と相並んで此の地域を持つ地理的歴史的意義に決定されてゐると思へる。（後段參照）故に兩者共に全般的社會生活の地理的構成から論ぜられ

ねばならぬ問題である。

扨、ビジネス・センタアを廣く見ると以上の如き諸特徴が含まれてゐる事は、唯、東京のみならず大小の諸都市に於いて直に觀察し得る所である。前記の書「ビジネス・センター」に於いて消費經濟の中心――小賣商店街――として銀座が擧げられたのも、丸の内、兜町、蠣殼町とは異つた形相のビジネスに就いて觀察してゐる爲めである。殊に銀座を東西に横切る方向に於いて諸種の娯樂機關が現在著しく發展しつゝある傾向はビジネス以外の中心地構成を思はせる。

二

斯くの如き中心地構成は、大都市内部に於いては、決して一箇所たるに留まらぬ。勿論何等かの標準によつて見るといくつかの階等を見出し得るが、面積百平方粁を越え人口の稠密な都市にあつては、大、中、小の中心地がいくつか構成されて來る。東京に就いて見るならば、銀座、淺草、新宿の外に、神田、上野、神樂坂、人形町、澁谷等の中心地點を擧げる事が出來、更に舊郊外（現新市域）地帶に同じくいくつかの中心地點を求める事が出來る。而して是等の副次的な中心地は、上記のビジネス・センタアがその都市全體の構成上に於いて決定せられるとするならば、是等はその内部に於ける局所的な構成上から規定されて來る。故に此の意味の中心地は局限された一部分地域の中心點でしかあり得ない。しかし中心地たる性質に於いては同似である。

次にかくの如き中心地はどうして、何故出來るかを考へて見る必要がある。後段に又改めて論ずるが既に述べた様に、社會的接觸の最も頻繁にして複雜なるもの、一言にしては、最も社交的なる現象の起る場所が即ち中心地を構成して來るのであるが、かゝる現象は何を通じて起るか。「メトロポリタン・コムミュニティー」の著者マッケンジーは此の中心構成を物品の購入、適切に云へば買物（ショッピング）に求めてゐる。又「盛り場」研究の權威石川榮耀氏は商店街盛り場の外に純粹慰樂區盛り場を認めて、娯樂機關及び施設による中心地構成を注意せられる。事實此の後者による發生は決して看逃すべからざるものである。淺草が盛り場としての意義の大半は、其の娯樂機關にある。江戸時代の盛り場又、之れと同一の因緣のものが少くなかつた。淺草が商店街を爲してゐるか否かは別段の調査に俟たねばならず、又一瞥しても、仲店の如き極めて特殊なる商店街、その他淺草寺を圍む、殊に南側の小賣商店街、或ひは夥しき料理店飲食店等は、單なる娯樂的中心以外の勢力の存在を物語るものゝ如くにも見えても、此の商業的性質に於いて、全東京に對する中心地を構成してゐるや否やを別の問題とならう。反之、銀座の如き純然たる商店街的な中心に、既に述べた様な映畫演劇等々に關する娯樂施設が增加して來た傾向を看逃せない。然かも此の事は、中心地構成の經過に就いては有力な傾向ではないかと思はれる。即ち昔の神社佛閣等の祭日開帳日なぞと市日（イチヒ）なぞとの關聯からも知らるゝ通り、純粹娯樂と買物、即ち商店街との當然なる結合が行はれるものと思はれる。

茲に今暫く商店街を中心とした中心地を見る事とし、前掲マッケンジーが其の書に掲ぐる所の北米ボルティモア市の例を考察して見よう。ボルティモア市は一九三〇年人口八十萬五千其の面積二〇、三八八ヘクタアール（吾國の數字に比較すると、人口に於いて神戸市に僅か劣り面積に於いて大阪市に聊か優ぐる）此の全市を三つの商業的區

域に分割し第一には中央商業區域、之れは全體土地面積の僅か一厘九毛、第二には中間市街商業區域、その面積の割合二割六分、第三には、その殘余の外側商業區域、全面積の七割三分八厘に當る三區域とし、是等の區域に就いての商業殊に小賣商店分布を調査してゐる。

此の研究は國勢調査に對する同市の報告に基いて、その他の資料を加へ米國商務省、內外商業局の Inez K. Rolph 氏によつて爲されたものであるが、以上の三區域に對し、更に商店種類による分類法を適用し、惹いては各區域內に於ける中心的商店街の等級づけに及んでゐる。（前掲書、第十九章 Nucleation: The Pattern of Retail Marketing 參照）

此の場合商店種類に就いての分類法は、

（一）取扱商品によるもの

（イ）食料品　（ロ）一般雜貨（百貨店均一店を含む）　（ハ）乘物運搬器具及用具其他附屬品（例へば自働車々庫及ガソリン補給所の如き）　（ニ）衣類被服品　（ホ）木材及建築用品　（ヘ）家具及什器類　（ト）料理、飲食店　（チ）藥種品　（リ）寶石貴金屬品　（ヌ）その他商品

（二）營業形態によるもの

（イ）單獨々立店　（ロ）獨立にして二乃至三營業所を有するもの　（ハ）連鎖店（ローカル）　（ニ）連鎖店（セクショナル）　（ホ）連鎖店（ナショナル）　（ヘ）其の他の連鎖店及上述の如く分類し得ざる經營に屬するもの

即ち前記の三區域に對して、以上の分類法により其の分布狀態が調べられる。商品別分類に就いては、更に商店數と賣上金額による分布が調べられてゐる。之れによれば各地域の性質が一層判然とするワケである。

更に中間市街の域にあつては、副次的中心地（サブセンター）、公共市場、路線的及び散在的の四種（又は四地區）に細分され外側區域にあつては、此の區域に於ける副次的中心地と Neighborhood Development とに區別される。故に同市に於ける商店の地域的分類としては左の如く七種類に分たれる。

- 全市
  - 中央商業區域
    - 副次的中心地
  - 中間市街商業區域
    - 路線的
    - 公共市場
    - 散在的
  - 外側商業區域（ネイバアフッド・デヴェロプメント）
    - 副次的中心地

此の分類中、集中的ならざるもの、即ち、副次的中心地にも、路線にも、又はネイバアフッド・デヴェロプメン

トにも屬せざるが如き散在的な經營は、中間市街區域内のものとして取扱はれてゐる。かゝる性質のものは、外側區域にも布在すると思はれ得るが調査の示す所によると、かゝる部分は極めて僅少であるが故に、中間市街區域のもののみが取扱はれ右分類に示すが如き結果となつたのである。

右分類中、一、二説明すべきものがあらう。第一に路線的區域であるが、主として大通りの兩側に數區劃に亘つて商店が連續してゐるもの、しかし、隣接路線に於いては、殆ど商店の連續してゐない場合で紐狀形式をとる場合である。地理的には中央商業區域より放射し其の路線の連絡系統中に副次的中心を含み且つ連結してゐる。第二に Neighborhood Development であるが、之れは外側區域即ち、專ら住宅地域に所在するものであつて、此の區域は既に述べた樣に公園、墓地を除いて全市面積の七割三分八厘、人口は三割五分即ち二十八萬余を有する。かゝる地域に於いては、副次的中心地の外に「副次的中心地のより大なる複雜性を除外した、唯必要品丈けを賣る商店の一群」の存在する區域がある。かゝる存在は時折交通機關の乘換地點に基く事もあるが、大體に於いては其の近隣の居住者を目當てのものである。中間市街區域にも存在し得るが、此の區域内では大體に於いて商業地域と指定された地域内に於ける散在的商店に混入して分別し難い狀態にある。其の故に專ら外側區域的存在として分類されたワケである。かゝる性質のものとして、主として食料品、藥種、金物、及びガソリン等を商ふ。此の種の性質は後で副次的中心地を説明して來ると、それに比較して、其の眞相が分明とならう。

三

此の調査に於いては、副次的中心地は、既に掲げた、取扱商品による分類を標準として、數等級に分れる。上記十種目に分類せられたものゝうち、最後の(ヌ)項に該當するもの——即ち(イ)より(リ)迄の九種に分類し得ざる性質——の商品群を無視して、食料品、被服衣類、一般雜貨、藥種、料理飲食店、寶石貴金屬、家具什器、木材建築用品、乘物運搬用具等の九種目に就き

A　級　九種目全部を含むもの

B　級　九種目中七種目迄を含むもの

C　級　同じく六種目迄を含むもの

D　級　同じく五種目迄を含むもの

而して此の調査にあつては是等九種目の商品群に就いて何等階等を附さぬ。しかし此の事に關聯して考へられるのは、人口集團の大小と商店の專問化の程度との關聯である。前記マッケンジーの著書に掲げられる別個の數字によると合衆國に於いて次の關係が明示されてゐる。一九二九年テキサス州に於ける調査によると人口五〇〇より六〇、〇〇〇にいたる人口集團の階等に從つて商店專問化の程度に粗密を現はす、即ち人口五〇〇級にあつて專問化する商店としては男女被服及び呉服店、金物家具葬儀店、肉類及び食料品店、金物店等であり一、〇〇〇人の人口集團にあつては家庭用具店、婦人被服店(靴を取扱はず)、寶石店(樂器及眼鏡)、男子用帽子及洋服店(裁縫店)、男女被服衣裝店、更に人口二、五〇〇に至ると專問の樂器店、三、〇〇〇に及ぶと男子被服專問店、四、〇〇〇の人口で

は專門の家具店（新品及び中古品を取扱ふ）、六、〇〇人の人口集團では、男女用靴及び靴下店、一〇、〇〇〇では、男女用靴專門店、人口三〇、〇〇〇では婦人用靴及靴下の專門店、四〇、〇〇〇では婦人帽子店、六〇、〇〇〇の人口集團に及べば婦人靴、男靴、男帽子等各々に就いて專門店が現はれる。（前掲書七三頁第三十一表參照）

それ故に同じ品物を取扱ふものとしても、各種商品についての專門化の程度は單に各種の人口集團についてのみならず、一人口集團內部の各地域によつて違つて來る事となる。米國に於ける例を生活樣式の異なる我都市に適用する事は出來ないが、一例を以つて云へば最も尖端的な婦人帽の專門店の如き、吾國では百萬程度以上の人口を有する都市の、しかも特定な街にのみ現はれるであらう。又煙草のみを商ふ商店の如きは一つの都市について何處の地域にでも見出し得るワケに行かない、ある特定の地域に限られる。他の地域では煙草は副業的に取扱はれる。

都市の發展と共に都會の內部、中心及びこれに近い部分には、商店の專門化が行はれる（百貨店は別に解釋しなければならぬ）、反之、都心地から隔るに連れて、此の專門化が少くなり、從つて昔風の萬屋（ヨロヅヤ）式經營が多くなる。此の點からして商店街の等級を專門化の程度を標準として觀察する事も出來るワケである。商店街の現地調査に當つては、此の關係も充分調べておかねばならぬ。

扨、再び前に戻つてボルティモア市に於ける調査によつて、各區域に於ける商店分布を調べると次の如き數字が示される。

中央商業區域（面積比率　〇・〇一九％）

商店數　七四八（全市ニ對スル比率　六・一％）

純賣上額　一〇七、一〇六、〇〇〇弗（同比率　二八・一％）

中間市街商業區域（面積比率　二六％　人口比率　六五％）

商店數（概數）　九、八〇〇（同比率　八〇％）

純賣上額（概數）　二五二、一三九、〇〇〇弗（同比率　六六・三％）

右內譯

副次的中心地（十八ケ所、內A級七、B級五、C級六）
- 商店數比率（全市ニ對シ）　一二・二％
- 純賣上額比率（全市ニ對シ）　一二・四％

路線的地區（五線）
- 商店數比率（同上）　六・一％
- 純賣上額比率（同上）　六・二％

公共市場（十一ケ所）
- 商店數比率（同上）　一一・四％
- 純賣上額比率（同上）　四％

散在的商店
- 商店數比率（同上）　五九％
- 純賣上額比率（同上）　四三・七％

外側商業區域（面積比率　七三・八％　人口比率　三五％）

商店數（概數）　六四〇（同比率　五・二％）

純賣上額（概數）　二二、三〇五、〇〇〇（同比率　五・六％）

右内譯

副次的中心地（二十ケ所、内A級二、B級一、C級一〇、D級七）　商店數比率（同上）　四・三％　純賣上額比率（同上）　四・五％

ネイバアフッド・デヴェロップメント（十八ケ所）　商店數比率（同上）　〇・九％　純賣上額比率（同上）　一・一〇％

四

以上の數字から、各地區の、各大、小中心地の小賣商業上の勢力が一應明瞭になると思ふ。

先づ何と云つても商店數及び賣上額に於いて中間市街商業區域が最大の數字を示してゐる（各、比率として八〇％五八・二％）。しかし此の地區に於ける此の大きな勢力は、ある地區に集中せるものとしては、商店數に於いて二九・七％賣上額に於いては、二二・六％であつて、殘余は此の區域内に散在せるものゝ勢力である。此の事も亦、此の區域が可なり商業的であると共に、純商業的ならざる事情を示してゐる。外側商業區域は、住宅地としての性質上、商業的勢力は極めて微弱である（五・二％　五・六％）。中央商業區域、之れは都心部ビジネス・センタアに當る地區と思はれるが、此の區域の面積が極めて狹少（全市面積の約二厘弱）なるにも拘らず、商業的勢力は頗る大きい、殊に商店數は全市の六％に過ぎぬのに賣上金額に於いては、二八％に達してゐる事は此の間の事情を物語るに充分である。

更に各大小中心地の等級別を見ると、中間市街商業區域にはA級の中心地斷然多く七、B級は五、C級六を示してゐる。之れに對し外側商業區域ではA級に屬するもの僅かに二つ、B級一、C級が第一位を占めて一〇、他の區域に見ざるD級七を有し、更に商店構成の複雜性に於いてD級になほ一段と劣れるネイバアフッド・デヴェロップメント一八に此の地區の特色を示してゐる。

次に商店又は商品別による地域的特色を示すと、

	全市	中央	中間中心地	外側中心地	路線的	市場	N・D	散在的
食料品店	五一・二（二九・七）	〇・四（〇・七）	三・四（二・七）	一・八（二・一）	一・二（〇・六）	一〇・七（三・九）	〇・六（〇・七）	三三・一（一九・〇）
一般雜貨店	四・二（一五・三）	〇・二（一〇・七）	一・〇（一・八）	〇・四（〇・三）	〇・三（一・一）	—	—	二・三（一・四）
乘物運搬用具店	六・五（一三・一）	〇・一（〇・一）	〇・七（一・六）	〇・五（〇・八）	〇・二（一・〇）	—	〇・一（〇・三）	四・八（九・三）
被服、衣裳店	八・六（九・三）	二・一（五・五）	二・七（一・八）	〇・四（〇・一）	一・四（〇・八）	—	—	二・〇（一・一）
木材建築用品店	四・三（六・〇）	〇・二（一・一）	〇・六（〇・六）	一・四（〇・四）	〇・三（〇・五）	—	〇・一	二・七（三・四）

家具什器店	二・二	〇・三	〇・七	〇・一	〇・四	—	—	〇・七
	（五・六）	（二・七）	（一・三）	（〇・一）	（〇・七）			（〇・八）
料理飲食店	六・四	〇・八	〇・八	〇・二	〇・六	〇・四	—	三・六
	（三・四）	（一・二）	（〇・三）	（〇・一）	（〇・四）	（〇・一）		（一・三）
藥種店	三・五	〇・二	〇・四	〇・三	〇・三	—	〇・一	二・二
	（三・四）	（〇・八）	（〇・五）	（〇・四）	（〇・三）		（〇・一）	（一・三）
寶石店	一・二	〇・三	〇・三	〇・一	〇・二	—	—	〇・三
	（一・六）	（一・二）	（〇・二）		（〇・一）			（〇・一）
其の他店	一一・九	一・五	一・六	〇・一	一・一	〇・三	—	七・三
	（一二・六）	（四・一）	（一・六）	（〇・二）	（〇・七）			（六・〇）
合計	一〇〇・〇	六・一	一・二二	四・三	六・一	一一・四	〇・九	五九・〇
	（一〇〇・〇）	（二八・一）	（一二・四）	（四・五）	（六・二）	（四・〇）	（一・一）	（四三・七）

備考　區域名は各々略號にした。括弧内の數字は賣上額の比率、他は商店數の數字比率である。

之れによると各商店街に集まる需要の種目とその購買力の大勢が判明する。公共市場にあつては、食料品店が殆ど全部であり、全市に對する割合に於いても、相當の勢力である（全體に對して全市五一・二、市場一〇・七（二九・七）（三・九））。即ち食料品關係全體に對しては店舗にして二割强を賣上額にして一割三分を示す。此の種の商品にあつては、地域的集中は比較的乏しい。此の種店舗總數の六割五分弱を占めてゐるものが散在的なるをみても明瞭である。之れに類する商品種目としては、木材、建築用品、乘物運搬器具及附屬品、藥種品、其の他商品等、店舗數及び賣上金額に於いても此の種の地域的分散を示してゐる。（即ち廣い地域に多數が散在的に分布してゐる意）反之、地區的集中を見せてゐるものは、唯單に店舗數のみをとつては、截然と示し難いが（例へば寶石商の如きは、店舗總數に對して中央、中間中心地、散在的の三者同一の比率〇・三であり、此の種店舗總數に對する割合は共に二割五分であり、中央商業區域にとつては、被服衣裳類の二割四分と共に、全市に對する比率的勢力から見ると上位のものである）一度純賣上金額に於ける成績を對照すると著しき相違を見せて來る。其の適例は一般雜貨である。此の種の店舗にあつては、中央商業區域の占める勢力が店舗數に於いて約五％、しかるに賣上比率に於いては、七割に及んでゐる。此の點、中央商店街は衣服業に於いての決定的中心である。（此の事情は此の種の店舗として百貨店、呉服店、雜貨店、萬屋（ヨロヅヤ）、均一店等を含む事に起因するものと思はれる）料理、飲食店の如きも、店舗數に於ける割合は散在的地區が最も多く（五六％）中央商店街、中間商店街（サブセンタア）之れに次いで共に一二・五％を示すが賣上金額に於ける比率は、中央商店街は三割五分を占め、中間市街區域に散在するものに比敵する勢力を示す。中間商店街は一割にも達しない。家具什器の類も此の例に擧げ得る。中央商店街の占むる勢力は店舗比率に於いて、此種店舗總數の一割五分弱であるが、賣上に於いては五割に達し、之れに次ぐものは、中間商店街の店舗比率三割二分弱、賣上に於いて二割五分である。

以上述べた點を綜括すると、中央商店街に於いて集中的な勢力を示すものとしては、先づ寶石貴金屬類、一般雜貨、被服衣裳類、家具什器類であり、料理飲食店之れに次ぐ。此の勢力が非常に狹少な地域に比較的少數の店舗に

於いて代表される事は此の地區の最大特色でなければならぬ。而して此の地區をして斯くの如き特色を出さしめた反對には、外側商業區域の如き對照的傾向を持つた地域の存在が當然豫想される。即ち住宅地區として、しかも商業的施設に於いて乏しい事は、當然此の地區の居住者と中央商店街との連絡が頗る容易なるを裏書きする。第二の地區である、中間市街商業區域は地區として、全人口の過半數(六五%)を占めてはゐるが、居住者の所得、從つて購買力は劣弱と云はれてゐる。從つて商店と住宅の截然たる地區的區別が不可能であり、居住者は、此の地區の內部に生活し買物をし、又往々にして仕事に從事してゐる狀態である。

斯くの如くして三つの地區は、各、異なれる生態を示す。此の生態が、都市全然の發展に規定された、各地區の居住者の社會相を表現してゐるものである事は論を俟たぬ。茲に紹介した調査では、未だ此の種の三地區の商業上に現はれた優劣を直に結論する事は出來難い。唯既に說明した店舗數と純賣上金額とを對比する事によつて僅かに察し得る丈けである。各地區の代表する賣上金額に於ける比率を見れば(前揭表參照)中央商業區域　二八・一　中間市街商業區域　五八・二　外側商業區域の五・六の比率によつて一應の豫想を許すであらう。又、各地區における大小の中心的商店街の等級別も此の豫想を確定せしむるものであらうが、更に店舗專門化等の標準を加ふる事によつて一層効果を上げ得ると思はれる。

なほ此の調査に於いては、既に一言した樣に各商業地區による經營形態の特色に就いて詳細が語られてゐるが之れは、此の機會に於いては詳述を省いた。商業經營的な立場からは寧ろより興味ある問題であらうが、本稿の目的とは聊か離れると思つたからである。

五

以上は都市生活の地域的關係に於いて中心構成を、商業的因子に於いてのみ觀察したものである。しからば斯くの如くして見出された各地區、殊に中央商店街、副次的中心商店街、路線的中心街、乃至はネイバアフッド・デヴェロップメント等は商業的に將又、其の他の關係で如何なる役目を演ずるか。

先づ第一に、かゝる地點がどうして形成されて行くかを觀察しよう。

自然發生的であれ、計畫的であれ、商業的施設は常に交通の最も集中する地點に發生し且つ發展する。之れは恐らく證明の必要のない程明白な現象であらう。自然發生的には、ある聚落の發達史を見るがよい。計畫的に云つても全く他の形式を考へる事を許されぬ。而して茲に交通と云つたのは、單なる人口集團以上の意味を含ませたからである。即ち集團的人口の動きを指す。交通とは距離の關係ではあるが靜的の距離ではなくして、此の距離に於ける動きである。故に集團的人口は、交通となるには、距離的の動きとなつて現はれねばならぬ。軍隊の營舍、大工場、それ自體は巨大の人口集團であつても、これだけで商店街を發生せしめる事は出來ない。此の人口集團の距離的動きが必要である。それ故に、一體として眺められた住宅地區、或ひは學校街、是等は其處に含まれる人口集團の、當然なる距離的の動きによつて、交通現象を惹し、其の程度の如何に應じて、特定の地域に於ける商業施設の充實の程度を決定する。

此の意味に於いて、都市それ自體が全國的に見て最も交通の繁しい地點であると同樣に、その都市の內部にある或る商店街は一定地區の最も交通の繁雜な地點に結びつく。都心地は、現代的ビジネス・センタアの形成によつて、最も交通量の巨大な地點となつた。故に之れに添附した地域に中央商店街が出來る。大都市の發展として郊外は開發された。郊外居住者は、都心地への日常交通を、其の郊外驛と都心地終點との間に營む。此の交通流は、都心地終點と、末梢的郊外終點との兩極に於いて解放、分散される。それ故に、郊外に於いては驛を中心とした、商店街が發生する。かゝる郊外的商店街は末梢的である故に、其の直接關聯し支配する地域內の人口集團によつて其の規模を規定せられるが、都心地の商店街は、かゝる末梢的終點の無數を連結し、更に都市外部即ち全國的な交通關係も一應は此處に集めるが故に、他に比類なき大規模な商店街を出現せしむる。此の狀態は、交通關係から兩者、即ち中樞と末梢との交通量を比較すれば直に證明し得る。假りに例を東京にとつて見るならば新橋東京驛間に解放される省線の乘客量を、郊外諸驛の乘客量に對比し、更に又、新宿、澁谷等の中間驛のそれに對照せしめれば、各地點の持つ商店街の規模をそれ〴〵親ふに足りるであらう。此の點、即ち大東京に於いて最も重要な交通脈たる省線に直接關係の無い淺草の如きは、銀座、日本橋の界限は勿論、新宿、澁谷の諸地區とも異つた性質を帶びざるを得ない、否、單なる商店街としては、到底今日の規模を持ち得ない。茲に、銀座、新宿、淺草と三者を比較すれば、淺草の特長がある。

次に、所謂中間市街商業區域に於いてはどうなるか。此の場合に於いても、同樣な交通關係が見られる。而して此の區域に於ける商店街の勢力には、都市發達の經過と共に多くの消長を見られるであらう。

山の手と下町とを區別し得る都市にあつては、かゝる地點は、その兩者の境に近く、場合に應じては山の手寄りに、他の場合には下町寄りに存在する。之れは、山の手と下町との大動脈的な交通流が共に解放される地點だからである。

茲で筆者の經驗を語る事を許して貰ひたい。東京の山の手、本郷に永年住んでゐた筆者は、明治末期大正初期の本郷に於ける商店街としては、本郷三丁目と肴町とを記憶してゐる。筆者の家は此の南北に通ずる、ほゞ一直線にして、約半里の、後には大通りとなつた道路の三分の二の邊、肴町によつた方（即ち北より）にあつた。その頃自分の感じた所では肴町の方が賑かであつたと思ふ。市電は、初めは、一方は本郷三丁目、他方は春日町迄、此の方が其の後巢鴨線が白山坂下迄延び、他方本郷三丁目からは追分、即ち一高の前迄延び更に前者は、現在の如く巢鴨に、後者は肴町に、其の後餘程たつて駒込橋、飛鳥山方面迄延びた。此の頃、本郷の樣な山の手の居住者は、銀座迄はさう度々出掛けなかつたらしい。年に何度と云ふ位のもので、たゞ歲暮のクリスマス・デコレーションと銀座とが結びつけて考へられた丈けである。少し遠くに出かけると云つても、須田町、小川町の神田方面、上野池の端仲町、廣小路邊であつた。そのほか日本橋が控へてゐた故に、東京の北隅からは、此の中心を越して銀座方面まで南下すると云ふ事はあまり無かつた。

此の當時肴町の、僅か一町ばかりの町並がショッピング・センタアであつて、夕方からは雜沓を極めた。それでよく晩食後出かけたものだが何が面白かつたか、と今きかれても一寸返事の仕方がない、別段に面白いものはなかつたらしい。唯ぶらつくのである。活動寫眞なぞのまだ發達しない頃の事だから、かうした商店街でもぶらつく以外に、下町ではとに角、山の手では時間の消し方がなかつたと思はれる。此の肴町の地理が盛り場とは云へないにしても、當時よく商店街たるの地理

的條件を具へてゐた。即ち東西に走る一町ばかりの道だが東はそのまゝ延長すれば駒込千駄木の北邊をかすめて團子坂に。又此の道の途中から左、林町に入る道筋となつてゐる。東端の四辻を北へ向けば一方は駒込吉祥寺から神明町、飛鳥山へ行く道であり、斜右に切れゝば駒込勝坂から田端へ出る。肴町東端を南すれば本郷通、一高、帝大が東側にあり、片側町をなしてゐる。此の東側は蓬萊町、追分であり、此の裏に千駄木町、根津がある。肴町の西端は北へ行くと巣鴨板橋への、中仙道、南方へは二つに分れて、東側にあるものは、南下して、一高前で本郷通に合する。西側にあるものは白山坂を下りて、小石川指ケ谷町を經て春日町水道橋、神保町へと出る。此の西端につながる町は小石川原町の純然たる住宅地であり、追分通の西側は東片町の、同じく住宅地となつてゐる。

かくの如き地形である所へ持つて來て、其の頃には、西側では白山坂下（後には坂上から巣鴨まで）東側では肴町東端（後ではこゝから西に曲り肴町をつきぬけて、巣鴨線と一緒になつた運轉系統もあつた。駒込橋、飛鳥山に通じたのは其後の事で比較的最近である）に三本の市電交通路があつたワケだ。故に東の方では千駄木町、林町、團子坂方面、北の方では勝坂、神明町、駕籠町、西の方では原町等比較的廣い住宅地域への下町から來た交通流はこゝで解放され、反對に下町に行く交通流は、まづ此處に凝集したワケである。此の事情が肴町をして小さいながらも一つのショッピング・センタアを成立せしめたものである。

東京市内に於いてかゝる類例を求むるならば、相當多きを擧げ得よう。麻布十番、牛込神樂坂等は其の内、最も著名なものと云へよう。

六

斯かる中間市内的の商店街は、「盛り場」としては、他に之れを助ける要素が無いと、日用必需品の配給地點たるに留まつて、其の後の都市發展に際しては、地區的中心點たるの勢力を失ふ樣に思はれる。ボルティモア市の場合に於けるが如く、此の區域の商店街としては中產乃至下層の市民の日用必需品に對する設備と用意とが主である。故に買物にしても、大部分實用的である。悅樂的な色彩は乏しい。娛樂機關の少ない時代は兎に角、現在の如く映畫、レヴュー、酒場、カフェー、喫茶店、撞球、麻雀等々の余暇利用の機關が具はり、大衆的利用を許される時代にあつては、實用的な買物に對する施設丈けでは、中心地を構成し難いのは當然である。成程、日用の買物それ自體が、基本的な部分を除いては、多分にファンシフルなものとなつて來たのは事實である。靴下一足を求めるにしても、色々悅樂的な氣持を滿足させ樣とする。

しかし、之れは、流行の場合最も判然と現はれる。流行品となれば、中間市街的商業區域は先づ、中央商店街に一籌を輸する。都心地に交通する機會と手段のあるものは、斯くの如くして、以前は、附近の商店街に投じたであらう購買力を、都心地の商店街に持つて行く事となる。斬新とかファンシフルとか云ふ事は、地味な實用的な商店に比べて、都心地商店の最も高く尊重する目標である。飲食店の如きに於いてすら、ヴァラエティーと斬新とは都心地のそれに於いてのみ見られる。郊外驛の喫茶店が紅茶コーヒーの類をしか販賣し得ないに對して、都心地にある喫茶店の取扱ふ飲食物の斬新複雜はそのメニューによくあらはれる。此の故に又、中間市街地又は場末の商店街なぞが中央商業街の悲しき模倣をする事にもなる。故に此の現象の結論としては、都市の發達と共に中間市街地域にある商店街には、淋れる、――少くとも、相對的には淋れる、乃至は、都會の發展に歩調を合せ得ないものがある

と云へる。それと同時に、住宅地域内に於ける中心地としては、唯、商業的な要素丈けでは不充分だと云へる。こゝに、「盛り場」と稱せられるものには、當然商店以外の他の要素がついて來る。

從來から盛り場と稱せらるゝものには、夜店緣日の如き附帶物が存在してゐる。夜店及び緣日は共に商業的な用意である。しかし之れは斬新又は好奇と云ふ點で、常設の商店なぞより、觀客の注意力を惹く力がある。又、商店街の構成も之れによつて幾分のヴァラエティーを增す事がある。多くの緣日、夜店に於ける古本屋（例へば銀座に於ける）植木屋、金魚屋等は此の種類のものと云へる。夜店の存在は、確かに觀客にとつて一つの魅力であり得る。又此の存在が商店街の地理的條件を良好ならしめる（例へば道幅を狹少にする事によつて、歩行者にゲシュロッセンハイトの持つ氣分的安易を與へる）が如き作用も看逃してはならぬ。是等は「盛り場」の心理學的な條件に對する基礎要件である。

更に娯樂機關の存在は重要な役割を演ずる。活動寫眞、寄席、芝居小屋、圍碁會所、撞球場、麻雀倶樂部の如き、「盛り場」構成中の重要な分子であらう、銀座を中心とした此の方面の勢力については既にのべた。此の點では一都市内に於ける映畫館劇場その他の分布を調査すべきであり、之れによつて同時に商店街をも指示する事が出來るであらう。之れと同じく料理飲食店も此の意味で重要になつて來る。しかし、之れは必ずしも一流の經營たるを必要としない。「盛り場」を利用するのは徒然の閑暇を消す方法であるが故に、輕い程度の享樂が主眼である。それ故に中央商店街に附帶する一流のホテル食堂の如き又は其の他に於ける一流の料理店の如きは必ずしも必要條件ではない。是等の土地に於いて最も優勢となるものは、食堂、小料理喫茶店、バア、カフェー等の形式のものである。之れと關聯して花柳界の存在が注意される。銀座、淺草、澁谷、神樂坂、上野廣小路、麻布十番等いづれも花柳界を其の附近に控えてゐる。又普通、新開地の發展策として、二業、三業地の施設が云々され、土地の有力者によつて運動される。しかし此の事は「盛り場」に如何なる交渉を持つか。普通「盛り場」に出入する市民は直に是等遊興施設の利用者ではない。前に述べた本郷肴町は後になつて白山下に花柳界を持つ樣になつた。しかし之れが肴町の「盛り場」としての勢力意義に有利な影響したかどうか、頗る疑はしいと思ふ。しかし、遊廓待合等に代つて警視廳規定の特殊飲食店をとり上げるならば、「盛り場」構成の要素としての、特殊飲食店の意義は充分になつて來る。故に此の問題は花柳界は何處に發生するかの問に對して先づ答へなければならぬ。之れに答ふる場合、新開地の如き人寄せの必要のあるものは別として、花柳街それ自體が、最も繁華な場所の一隅に惹きつけられるのである。新開地の如きに於いても、花柳街として選擇せらるゝ場所は此の條件に服さなければならぬ。從つて根本的には「盛り場」を發生せしめる力と條件とが同時に花柳街を發生せしめるのだと云つて差支ない。「盛り場」それ自體は花柳街を持つ事によつて意義を强めこそすれ、意義を弱むる事は頗る稀であるから、之れを排斥すべき理由は存在しない。此の故に兩者の關係は共に因を爲し果となるの性質のものであらう。

以上述べた樣に、ある地域に於ける、地區的中心構成には、單なる商業的要素の外に、必要な諸要素のある事が判明した。この故に單なる商業的中心地はそのまゝでは都會生活の中心地構成とは成り難い。唯、中心は吸引的勢

力を持つ。地理的社會的條件によつて商業中心地と定められた場所は、又、他の施設々備をも集中して、中心機能を益々發揮する。それ故に、商業的中心地は「盛り場」化する事を以つて當然の經路とする。此の意味でボルティモア市に於ける調査は、「盛り場」調査の重要なる一項目である。東京市が先頃行つた商業調査は、東京市に於ける商業經營の根本的且つ大規模の調査として頗る重要なものであるが、（東京市「商業調査書」昭和八年、東京市役所）筆者寡聞ながら此の地區的調査に、未だ利用せられてゐるを聞かぬ點は頗る遺憾とすべきものがある。しかし東京市都市計畫課に於いては目下「盛り場」の調査中にて近日發表せらる可き旨あるを聞及んでゐるは欣幸とすべきである。

七

扨、以上の現象を都市社會學的にはどう解釋するか、

元來大小、主副中心地は交通流によつて規定されると云つたが、茲で主として問題になるのは歩行者である。中心地決定に對する歩行者の意義は次の文章に現はれる、

『都市の焦點的中心の位置は著しく運輸交通によつて決定される、又是等の中心が逆に斯かる便益の發達に影響を與へもする。交通路線の交叉する所には、小賣商業が發生し、通行人の愛顧によつて繁昌する傾がある。而して是等交叉の最も多い所、其處には大規模な小賣店が密集する。百貨店、均一店、藥屋、其他常に人口流動の傾向に反應する同樣な小賣店が交通路の交叉線へ出來る丈け近寄つて集まる。金融機關及びオフィス等は幾分歩行交通に對してそれ程反應的で無いものだから、顧客の直接的必要及び氣分に媚びる店によつて占められた地域の縁に落付く傾向がある』（ギスト、ホルバアト共著「都市社會」一三三頁）R・H・モオレーは紐育市に於ける這般の例證を擧げる。（前掲書）

故に「盛り場」商店街を構成せしむる有力な勢力としての人口集團は、その地區に於いての歩行者としての勢力である。此の地區に於ける歩行者は大概の場合ブラ〳〵歩きの歩行者である。所謂「銀ブラ」人である。從つてかゝる地區に、其れ程の重要緊急な用件も持たずに、現はれる。換言すれば、かゝる地區の内に入つてその有する空氣に浸る事を以つて樂しみとする歩行者である。それ故に今和次郎氏のモデルノロジオ流に觀察すれば、かゝる地區に於ける歩行者の歩速にある特徴が現はれる筈である。學校、工場、會社等の出勤及退出時に見られる歩行者の歩速とは頗る異つたものが觀察されるであらう。

然らば何故、都會人はかゝる地區、商店街、「盛り場」に出歩くを樂ぶか、之れは都會人の生活心理から論ず可き問題であらう、一般的に取扱ふならば社會人の社交性心理の問題として取扱ふ可きであらう。現代的な商店街的盛り場の發展に對する原因として石川榮耀氏は、畫の機械化された生活の反動として外氣中の散策を必要とし同時に美裝された――仕事から解放されて人間的になつた（筆者註）――行人との接觸を必要とする事、商品鑑賞に止まる慰樂は最も廉價である事（商店街即ちショッピング・センタアであるがショッピングに素見（ヒヤカシ）の語義のあるのは面白い―筆者註）、商店の店頭美裝が慰樂的たる事、純粋慰樂そのものは時と金とを要し過ぎる事等を擧げておられ

る。してみると、「盛り場」は現代都會人の自由な（安價又は無代の）倶樂部の一種だとも云へる。

此の都會人の心理及び傾向は現代文明の特質であるかも知れない、殊に購買慾が旺盛である事は、一つの現代的特色とも見らるゝが故に商店街盛り場を樂しむ事は現代特有の現象であるかも知れない。しかし、一般社會人には社交的接觸を求め既に述べた斬新、好奇更に同感（シムパシー）を求める心理がある。之れが「盛り場」の心理となつてゐる事は疑ふ可くもない。氣分の轉換は娯樂の持つ一つの社會的意義であらうが、此の意味で「盛り場」それ自體が一つの娯樂設備だと云へる。

娯樂悅樂の設備であれば、當然、「盛り場」には諸種の條件が附加して來る。しかし、根本的には、娯樂は悅樂的氣分の醸成であるが故にかゝる氣分に反するものは、反對條件となるワケである。餘りに頻繁なる交通機關殊に高速度交通機關の露出的接觸、その他の往來不安全、ゲシュロッセンハイトの不足、乃至は「街の紳士」の横行等は其の主なるものである。先年警察が淺草から不良分子を逐出して「盛り場」としての安全を計つた事は諸方から、此の意味に於いて歡迎された。

又、「盛り場」の地理的分布も、此の「盛り場」の本質から決定される。都市面積の狹少な場合には問題がない。都市面積同（時に人口）が增大すると都心地は決して單一で無くなつて來る。ビジネス・センタアに接する「中央盛り場」は其の規模體裁に於いて正に首位を占むるものであらうが、此の外に幾多の副次的中心地を構成せしめる事となる。蓋し、「盛り場」は市民の悅樂の場所であり、日常殊に平日就中夜間の利用に叶ふものであれば、市民の住居より餘りに遠隔なる事を避ける。其の結果、「中央盛り場」以外に幾多の「盛り場」を人口の粗密に應じて全市に亘つてほゞ均分的に分散せしむる事となる。此の關係上、市民が自宅より盛り場まで至る距離は恐らく時間距離にして十五分、最大限に於いて三十分距離であらう。交通機關のない、即ち徒歩によらざるを得ない場合に於いて、あまりに遠距離なる事は、「盛り場」の悅樂的興味を減殺する。同樣に交通機關によるも、高價なる交通費は「盛り場」の利用を妨げる。

然るに「盛り場」は利用者の（即ち歩行者の）數の大なれば大なる程、其の規模を增すものであるが故に、周圍人口の餘り密ならざる、交通便益の完全ならざる地域に於いては、その發達が最も貧弱たる可きである。爲めに、ボルティモア市に於ける商店街調査に於いて見たる如く、「盛り場」にも等級が出來て來るワケである。「中央盛り場」は附近に必ずしも恒常密集人口を持つワケではないが交通機關の便益と、晝間人口の密集によつて、其の規模の最大を確保する。蓋し、此の地域に近接するビジネス・センタア（狹義）への通勤者は、此の「中央盛り場」に出入する最も惠まれた距離的條件にあるからである。彼等は其の歸途に於いて此處に出入するが故に、「中央盛り場」は其の手近かに最も大なる密集人口を持つてゐる事となる。休日、日曜日の如に至つては、此の特殊關係は消滅するが、其の代り、かゝる物日（モノビ）を利用して、時たまの「遠出」の利用者を吸引する力がある。

要するに、「盛り場」の分布は、地理的には均等的分散を見るが、「盛り場」そのものゝ規模、支配圏から見れば順位的である。利用者側から見て、特定盛り場の利用の頻數がある。即ち（一）最も容易に利用し得るもの、（二）比較

的容易に利用し得るもの、(三)容易には利用し兼ねるもの、の三者に區別される。他の條件にして等しければ、此の場合、「盛り場」そのものゝ順位としては第一のものが最も低く、第三のものが最も高いと云へる。蓋し、第三のものは、盛り場自體と利用者との間に何等かの障害があるにも拘らず、しかも利用せらるゝの性質を持つてゐるからである。逆に「盛り場」の方から見れば　(一)最も容易に來る事の出來る市民　(二)比較的容易に來る事の出來る市民、(三)容易には來る事の出來ない市民、此の三者殊に第三の利用者を最も多く包含し得る「盛り場」が最も高位のものと云へる。都市經濟學又は社會學上で云ふアクセッシビリティーが一番大きい地域だからである。又此の意味で特定の盛り場は、その背後地の廣狹と同時にその居住者の社會層を物語るとも云へる。が斯くして、「盛り場」は地理的には分散し乍ら其の規模に從つて、勢力圏が重なつて來る。

八

都市社會學的には、斯くの如き「盛り場」の分化を集中と分散の社會的經過から說明する。都會の膨脹は單一的形式の單純なる擴大ではない。この事はシカゴ大學のバージスが既に研究した通りである（「都市の膨脹」パーク編「都市」一九二五年四七頁以下）。彼は都市の膨脹に二つの相反する、しかし補修的な過程即ち集中と分散との作用の存するを認める。集中の代表型はビジネス・センタアである。其處には全市の（場合によつては全國の）生活中心がある。しかるにサブ・ビジネス・センタアが其の外側地域に現はれて來る。之れは、其の地區の中心ではあるが全然獨立の中心ではなくして、中央商業地域に支配された副次的中心であり、從つて分散的形態を整へた集中化であり、別の言葉を以つて云へば合理的集中である。斯くの如くして、一都市は恰も幾つかのコムミュニティーの合成體の形式をとる。

「盛り場」の都市社會學上に於ける接觸點は、此處にある。「盛り場」の等級及び主副的勢力に就いては既に述べた。斯くの如き「盛り場」は其の各々のコムミュニティーの中心地點である。都市が全國、府縣等の中心地である樣に。而して一國の發展、一地方の發展によつて都市の歷史に影響がある樣に一都市の發展によつて各コムミュニティー及びその中心點なる「盛り場」にも變遷がある。故に都市發展と云ふ動態は同時に個々の「盛り場」の動態でもある。都心地の集中的機能は都市の發達、交通機關の完成と共に益々發揮される。之れは、人口居住の擴大と共に新開地盛り場を發生せしめる一方、舊來からの「盛り場」の或るものを衰微せしめる、少くとも其の意義を低下せしめる。或ひは、都心地盛り場と末梢的盛り場との中間に中位的勢力としての盛り場を出現せしめる。都市の發展に伴つて、凡べてが斯くの如く統一的構成的となつて行く。

交通機關は、都市生活の觸手を限定すると共に延長もする。東京に就いて云へば、大都市としての發達は、西南近郊の發展となり、其の結果は鐵道省營の山の手線及京濱線その他近郊私設交通機關となつて現はれた。之れに準じて、銀座の「盛り場」區域は南方に延び新橋―銀座三丁目（舊尾張町）間は新しい發達を遂げた。山の手線、京濱線の充實と相俟つて、芝神明、麻布十番などの盛り場的意義は低下した。目黑驛附近を中心とした盛り場らしい盛り場の無いのも、實際は山の手線外側（武藏小山として知らるゝ地域）の急激な發展が新商店街を其の地に發生せし

めてしまつた事に基くと考へられる。此の點、澁谷、新宿と頗る趣を異にし、特に研究の必要がある。新宿の盛り場的發展は東京西郊の發達に俟つもので此の勢力によつて、東京舊市内の四谷、牛込の「盛り場」人口が吸引されて、それ丈け神樂坂、麴町の舊來の「盛り場」の勢力が稀薄化する。

斯くの如き中心地の地理的移動及び勢力の消長は何處でも見られる。横濱市に就いて云へば、辨天通りから伊勢佐木町へと移つた。紐育に於いては中央小賣商店街は漸次北上しつゝある。伯林市に於いては「デア・ツーク・ナッハ・デム・ウェステン」でロンドン市と共に西進した。東京に於いては、全體としては日本橋を中心とした所から、南下したと云ふ可きであらう。

斯くの如き事情から、中心地の發達は可なり歴史的である。勿論都市發生の初期に於いて交通の要衝に旅舍、驛亭、官署等が設けられた事には、地理的の條件が作用してゐた。しかし其の後の發達には、此の既に占められた位置が可なり影響を及ぼしてゐる。日本橋本町は確かに江戸時代に於いて然る可き地點として選ばれ發展して行つたものであらう。しかしその以後の江戸の發達には、此の地點が出發點となつた。道路、交通機關、之れ等はいづれも人文的のものである。それ故に甚しき地理的支障の無い限り、既に定められたる出發點を基點として整備されて行く。斯くの如くして東京の殊に現代に於ける「中央商店街」は聊か南方に移つたとは云へ、日本橋を基點として生じたものと云へる。それ故に又、「銀座」の商店街の成立を「傳統的」だとも考へられるワケである。お江戸日本橋時代に遡つて「地理的條件」を云々するよりも、其の日本橋を中心として整備された人文地理的な——從つて又傳統的と云ひ得る——狀態に據らしめて然る可きであらう。勿論、江戸時代の銀座がその當時から日本橋商店街の延長でなかつた事は明白であつても。

此の事は、紐育、市俄古、倫敦等の外國都市に就いても云へよう。唯、伯林の如き建設都市にあつては、多少趣を異にする點があらう。

兎に角、都市の如き成長體にあつては、既に定められた狀態が後世への出發點となつて行く事が多い。其の結果、都市の形相は或る意味で傳統的だと云へる。言葉を換へて云へば成長的なるものは傳統を持つ。都心地の「中央盛り場」に就いては、そして一部分舊市内的な「盛り場」に就いても、此の感が深い。唯、此の原則の全然適用されないのは、新開地域である。しかし此の場合とても、都市全體との關聯に於いては、その求心的方向が、傳統的な中心地によつて規定されてゐる。

九

最後に「盛り場」研究及び調査の意義に就いて語らう。第八節に述べた樣に「盛り場」の成立發展は、都市全體の發展過程に關聯するものであるから、都市社會學的研究の個別的臨床的方法として必要缺く可からざる事は云ふを俟たぬ。それと共に、コムミュニティー・オーガニゼイション或ひは隣保組織の對象としても見逃す事は出來ぬ。「盛り場」と關聯して考へられるのは、地區統制の問題であつて、若し前述した樣に、大都市は其の内部に更に細分せられたる幾つかのコムミュニティーを持ち、其の各々の中心點が大、小盛り場となつて現はれるならば、此のコ

ムミュニティーを組織立てる方法として――勿論都市生活のより良き組織立ての爲めに――「盛り場」研究は重要な基礎的研究となる。更に都市計畫上に於いて此の研究調査が重要なるは議論の餘地がない。

次に密接な關係を持つて來るのは、經營、殊に商業經營である。「盛り場」は石川氏の所謂純粹慰樂にせよ、普通商店にせよ、今日私人の手に營利的に經營せられてゐる限り、經營地點の撰擇、乃至は特定地點に行ふ可き經營の種目性質等に就いては、充分なる調査を必要とする。ボルティモア市の商店街調査に於ける經營形態と地域との關係は本稿には説明を省いたが、此の點では、不可分不可缺の關係である。又或る地點の現在の情況、將來への發展も充分知つて置く可きである。此の關係あるが故に、小賣商の地域的調査は、都市社會學の材料の爲めにと云ふよりは、商業會議所の如き機關によつて商業的利益の爲めに行はれてゐるのである。其の他土地家屋所有者又多大の關心を持つであらう。

しかし、此の場合必要とせらるゝのも、發展、變化を含む現象であるが故に、單なる一時期に於ける「盛り場」の調査研究丈けでは、効果に乏しいのである。將來への動きを察知する爲めに、綜合的知識に組み立てられたる、即ち都市社會學的に組織立てられた「盛り場」の知識が必要である。此の意味で、歴史的な觀察が又、重要となる。

故に結論こそは、都市生活に關心を持つ者、公私を問はず、都市社會の動きに就いての全體的な理解と見透しと持つ可きだと云へる。

昭和十年二月十七日稿

附記　余が慶應義塾大學經濟學部に於いて擔當する講座「都市經濟」の聽講學生に最近提出せしめたる論文中、主として東京市に於ける「盛り場」の現地調査十數ヶ所に及ぶを以つて、それ等を材料として、本稿をもつと具體的とすべき目算みであつた所、脱稿を急いだ爲め、是等の材料を殆ど利用するを得なかつた。説明を助くる爲めの地圖を用ひ得なかつたのもその爲めである。他日補正したいと思つてゐる。なほ本文中にも屢々引き合に出されてゐるが東京都市計畫委員會内務省技師の石川榮耀氏は「盛り場」研究の權威者である。過日本塾「都市及社會事情研究會」に於いて氏の講演を乞ひ、「盛り場」に關する造詣の深きを示され、學生の多大の興味を喚起せられた。本稿執筆に際しては生憎氏の論文を豫め入手するを得ず、僅かに稿の大半なる頃に及んで「都市の習性」（盛り場の研究）なる稿本を入手した。本文中引用せらるゝ所、之れによつたものである。其の體系的な研究、誠に敬服すべきである。聊か誌して敬意を表する。